



都連青年部通信

部落解放同盟東京都連合会 青年部
2018年 6月号

雇用相談のお知らせ

◆日時:6月20日 13:30

(6/20、7/18)

※緊急の場合はいつでも対応します。労働に係る生活相談等お困りごとがありましたら気軽に相談ください!!

◆内容:国と都の専任の担当者が仕事探しの手伝いをします。

①就職や仕事探しのサポート

②職業訓練や非正規から正規へのキャリア・アップの相談

③失業・求職時の居住や生活費などの生活相談・支援

◆費用:無料

◆問い合わせは各支部へ!

5月 取り組み

◆5月18日(金)18:00~『青年部学習交流会』解放会館

◆5月20日(日)13:00~『都連大会』台東区民会館8階

◆5月22日(火)18:30~『狭山事件の全証拠開示と再審を求める情宣行動』上野駅

◆5月23日(水)13:00~『狭山事件の全証拠開示と再審を求める市民集会』日比谷野

今後の予定

◆6月8日(金)第75期第1回中央青年運動部会議

◆6月17日(日)12:00~『都連青年部 BBQ 大会』仮奥戸集会所

◆6月24日(日)10:00~『狭山現地調査 2018』上野駅

◆6月30日(水)13:00~『ゆんたくまつり』スクエア荏原(品川支部)

BBQ 大会

日時:6月17日(日)12:00

場所:仮奥戸集会所(葛飾支部)

会費:1000円(子ども無料)

美味しいお肉を食べながら

ワイワイ盛り上がり!!

日常を忘れて楽しむぞ!!

問い合わせ

〒111-0024

台東区今戸 2-8-5 東京解放会館内

Mail:moyu.k@blitokyo.net

TEL 03-3874-7311

担当:岸本

— 狭山事件の全証拠開示と再審を求める情宣行動 — IN 上野

都連青年部は、狭山共闘青年交流会、解放同盟各県連の青年と共に5月22日、上野駅前で石川さんの無実を訴える情宣行動を行ないました。参加は全体で21名、参加団体は各県連含めて6団体でした。

「石川さんは無実です」と呼びかけながら配るチラシに、注目し受け取ってくれる通行人が多く、冤罪事件への認知度、注目度が高まっていることが実感できました。通行人から「若い人のこういう姿は素晴らしい」と声もかけていただきました。石川さんの見えない手錠を一日も早く外すため、青年が出来る取り組み、青年だから出来る取り組みをしていきましょう!!



— 5.23 狭山事件の再審を求める市民集会 — 「不当逮捕 55 年! 今度こそ事実調べ・再審開始を」



5月23日、狭山事件の裁判のやり直しを求め、雨のなか全国から2500人が日比谷野外音楽堂に集まりました。主催者挨拶、各党代表挨拶に続き、石川さん夫妻からのアピールがありました。石川さんは、「第3次再審請求で終結するには皆さんの支援が必要不可欠」と支援を呼びかけました。

弁護団は、提出済みの新証拠や提出準備中の下山第2鑑定についての報告がされました。「寺尾判決で有罪とされた証拠はことごとく崩壊しており、事実調べ、再審の道をひらいていきたい」とのべました。

冤罪被害者の方々からの連帯アピール、市民の会アピールは、皆さんの熱く優しい想いが込められ、とても心に響きました。基調報告でもあったように、今年は勝負の年です!絶対に再審を勝ち取りましょう!!

集会終了後は、石川さんの無実を訴え、デモ行進を行ないました。

5.15沖縄平和行進

【感想】 ～戦後 73 年、講和 66 年、復帰 46 年～

1972 年 5 月 15 日に沖縄は日本に復帰しました。

今年で復帰から 46 年が経過したのに合わせ、「5・15 沖縄平和行進」が開催され、都連青年部からは 2 名が、東京平和運動センターの一員として、5/12～5/14 の間、参加してきました。

12 日は南部戦跡の見学として、平和祈念資料館で平和の礎・平和の火を見学、その後、ひめゆりの塔へ行き献花を行ない、ガイドの方からそれぞれ説明を受けました。13 日の平和行進では、中北部基地と南部戦跡の 2 コースに分かれており、私たちは南部戦跡コースを行進してきました。平和行進の後、宜野湾海浜公園にて復帰 46 年 5・15 平和とくらしを守る県民大会に参加しました。14 日はキャンプ・シュワブゲート前で座り込みをしましたが、機動隊にどかされることもなく、全ての行程を終えました。

この 3 日間の中で強く印象に残っているのは、平和行進の際に手を振っていたり、「頑張ってる」と声をかけて応援してくれた沖縄市民の方々が多くいたことです。沖縄の問題に対して関心を持っているのだと感じるとともに、この状況は沖縄での運動を継続してきた方々の成果でもあり、継続こそが運動の力と結果に繋がっているのだと感じました。これからも、沖縄の様々な問題を学んでいくとともに、沖縄の運動に関わっていこうと思います。

松島 敦樹（葛飾支部）

「5・15 沖縄平和行進」に 5 月 12 日から 14 日までの 3 日間参加しました。

1 日目に沖縄県平和祈念資料館とひめゆりの塔に行き、ガイドさんから話を聞きました。平和の礎や平和の火、ひめゆりの塔を実際に見ること、それぞれの場所の歴史について聞くことの重要性を感じました。2 日目は宜野湾市役所前から県民集会が行なわれる宜野湾海浜公園までの道のりをシュプレヒコールと共に行進しました。行進を行っている間、県民の方々からの声援でコールの声もどんどん活気付いていきました。平和行進は 11 日から行われ、13 日までの 3 日間で 5400 人が参加、県民集会には 3500 人が参加したという発表がされました。3 日目はキャンプ・シュワブゲート前での座り込みに参加しました。5 月 14 日時点で 1408 日が経過していました。こうした積み重ねが新基地建設の阻止に繋がってほしいと思いました。

この 3 日間を通じて、継続していくことで人と人との繋がりや団結力が強まり、大きくなっていくのだと再認識しました。今後も沖縄の運動に携わっていき、一人でも多くの方に広めていきたいと思います。

堺 佑太（葛飾支部）

～1日目～

平和祈念資料館 平和の礎



ひめゆりの塔



平和の礎、ひめゆりの塔の説明をガイドさんから受け、どういった経緯によって建てられたのかを知り、平和という言葉の重さを感じると同時に、悲しみと苦しみしか生み出さない戦争は、もう二度と繰り返してはならないのだと強く感じました。

～2日目～

平和行進



復帰 46 年 5.15 平和とくらしを守る県民大会



平和行進では、南部戦跡コースを歩きました。

刺すような日差しの中、8.2km という道のりを行進していくと、沖縄市民の方々が大人から子どもまで行進中の私たちに手を振り、頑張れと応援してくれました。道中、右翼がヘイトスピーチを繰り返しながら行進を妨害してきましたが、妨害にも負けず、県民大会の行なわれる宜野湾海浜公園に到着しました。

県民大会では、各団体や立憲野党から連帯の挨拶や闘いの報告が行なわれました。

大会の最後には、5.15 平和行進実行委員長の山城さんが団結ガンバローを行ない、大会に参加した約3500 人が団結と連帯を確認しました。

～3日目～

キャンプ・シュワブゲート前での座り込みでは、参加した各団体から、連帯挨拶と新基地建設反対を訴えながら、午前 8 時 30 分から約 2 時間にわたって座り込みを行ないました。

午前 9 時には一回目の資材搬入があり、機動隊による排除が行なわれるのですが、この日は座り込みの成果か、機動隊による排除もなく、私たちが座り込みを終えるまで資材搬入もありませんでした。

キャンプシュワブ前座り込み



～清掃・人権交流会～

清掃・人権交流会では、毎年各地を訪れて差別の歴史や現実を学び、差別と闘う人々との交流を行なうためにフィールドワークを重ねています。

今年は5月13日、足立区で行なわれ、都連青年部も参加し、共に学習を深めてきました。



～江戸時代～

民族学者や江戸時代の書物などに足立区内の被差別部落もしくは被差別民の記述がでています。

農村部の副業として浅草紙の紙漉きが行なわれていました。浅草紙とは再生紙のことで、使用済みの紙の回収は非人が請け負っていました。



江戸時代関八州の被差別民の頭だった弾左衛門は、明治時代になり、製靴と皮革の伝習所を作りました。東京東部には、大きな皮革や製靴の工場が作られ、靴職人が多く養成され、皮革履物産業が発展する基礎となりました。

足立区にも、大きな製靴工場ができたことで、地場産業として発展していきました。産業の発展にともない、下請け会社や小規模な靴メーカーが沢山あり、靴職人も多く住みました。

また、足立区には廃品回収の仕切り場があります。1903年(M.36)に「屑物取扱場取締規則」が配布された後、強制移転が繰り返されました。足立区では浅草紙の紙漉きをしていたので、回収業者とは親交があったことから、積極的に受け入れられました。さらに、戦災にあった在日コリアンも廃品回収などのつながりで移り住みました。



～足立支部の結成～

1972年11月、靴の職人層と皮革加工(皮革鞣し、袋もの、靴)の企業者が中心となって足立支部が結成されました。靴職人の多くは自宅で作業を行うが、金槌などを使うため、音が出てしまいます。なので、民間アパートへの入居が困難でしたので、都営住宅に集団入居しフォローをしいました。

また、足立支部でも、就職差別事件や差別落書、差別投書、戸籍謄本や住民票の不正取得、など差別事件がありました。足立支部では解放同盟や共闘と連帯し、真相究明、再発防止など糾弾闘争に取り組んできました。

～なかま保育園～

靴職人の家庭では、接着剤などの薬品のにおいが充満したり、危険な工具があったり、子育てには不向きな環境でした。しかし、当時は家内労働だと、保育園の入所が困難だったため、1974年に都営住宅の一室に「保育室なかま」を開設しました。1975年に現在の場所へ移転。それまで、支部の子ども達を預かってきたが、地域の保育園のニーズにこたえ、地域の人々を受け入れてきました。

財政的に厳しい運営を支えるために、多くの人が支援し、バザーを行ない、財政と地域運動の成果をあげてきました。現在はバザーなどのダイナミックな活動はできていないが、日常の中から得た着実な地域での信頼をもとに、日々の日常活動を行なっています。



袴田事件再審 6.11 決定！！ 1966年に静岡県清水市で一家4人が殺害された「袴田事件」の犯人とされた袴田巖さんは、無実にもかかわらず死刑判決確定後、48年間も獄中で「明日が迎えられない」という恐怖を強いられていました。2014年3月に静岡地裁が再審開始決定をおこないましたが、検察官が即時抗告し、この4年、審理が長引いていました。現在は、長年わたる獄中生活の後遺症を抱えながらも、郷里で姉の秀子さんと平穏な生活を送っています。6.11の決定への検察の特別抗告を許さない取り組みを行ないましょう！！